

稲むらの火

災害大国 日本の教訓

2013年2月4日(月) 13:00~16:30

別府大学3号館ホール

入場無料

別府大学アジア歴史文化研究所 主催

大分高等教育協議会 後援



3.11 東日本大震災以来、防災への備え、絆の重要性が再認識され、官民こぞって様々な試みが行われてきました。本フォーラムも、そのような流れの中で地域の大学として何かできないかということで企画されたものです。別府大学は文学部を中心とした大学で、史学・文学を中心に長く地域に貢献してきました。

本企画では、歴史の教訓として災害をみるという視点から、「稲むらの火」をテーマにおいてみました。基調講演のクニ・トシロウ氏は漫画家で本学の客員教授です。氏は、ラフカディオ・ハーンの「稲むらの火」を震災以前に漫画化し、津波から多くの農民を救った浜口梧陵の教訓を再認識させようとなりました。本企画では、この漫画の企画の背景をお話いただき、併せて、慶長の地震で沈んだ瓜生島の調査に加わった京都大学名誉教授由佐悠紀氏や大分の地震記録に最も詳しい先哲史料館の館長平井義人氏からもご報告をいただくようにしました。多くの方々のフォーラムへのご参加を期待しています。



基調講演

「稲むらの火の教訓」 クニ・トシロウ 別府大学客員教授

報告

「沈んだ島 瓜生島の調査」

由佐 悠紀 京都大学名誉教授

報告

「大分の津波の記録と教訓」

平井 義人 大分県立先哲史料館長

討論

「災害大国日本の教訓」